

2020年12月17日

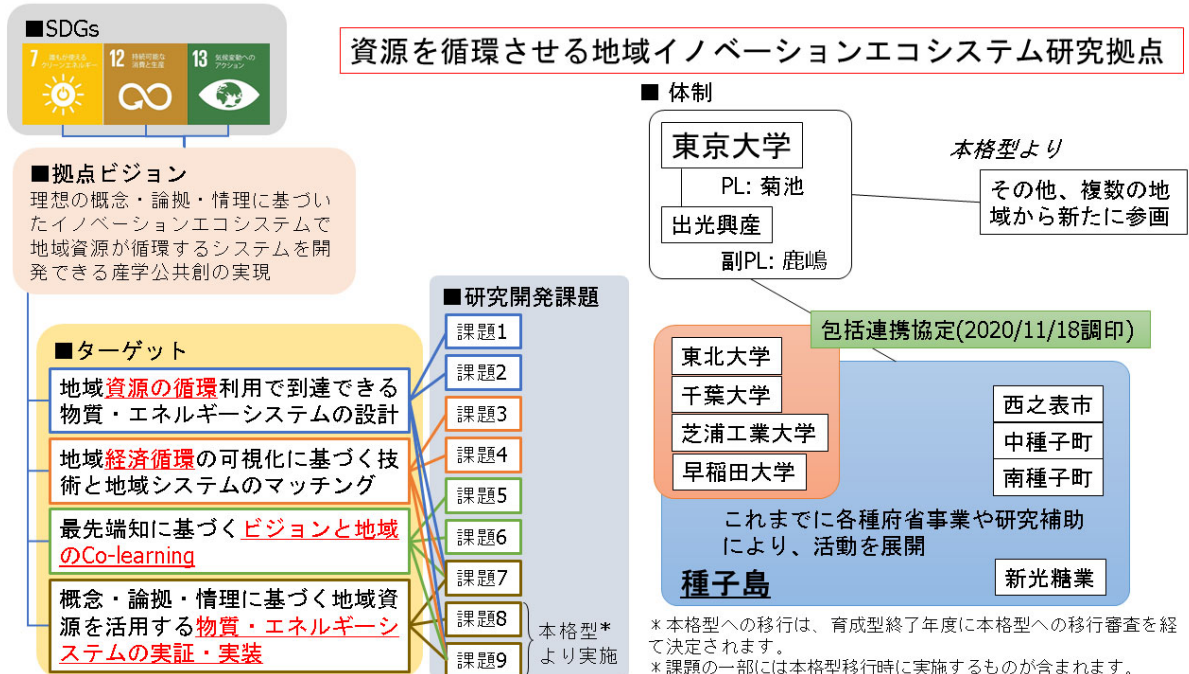
## JST「共創の場形成支援プログラム」 育成型（共創分野）公募プロジェクトに採択

東京大学未来ビジョン研究センターと「プラチナ社会」総括寄付講座において、これまでに複数の大学や企業、自治体や公共団体と協創により展開してきました地域のシステムを持続可能なものへと移行していくための研究活動が、国立研究開発法人科学技術振興機構（以下JST）が公募する「共創の場形成支援プログラム」の育成型（共創分野）プロジェクトとして、このたび採択されました。ここでは、地域資源を循環利用する物質・エネルギーシステムを社会実装するためのイノベーションエコシステムを地域ごとに醸成する産学公共創を研究、実践していきます。出光興産株式会社をはじめとし、東北大学、千葉大学、早稲田大学、芝浦工業大学、さらには活動を展開する具体的な地域の1つである種子島における一市二町（西之表市、中種子町、南種子町）、新光糖業株式会社と連携し、実証試験等を通じて地域住民を巻き込んだ社会実験を行い、他地域へも展開する予定です。

### 採択プロジェクト概要

#### (1) プロジェクト名称・内容

「資源を循環させる地域イノベーションエコシステム研究拠点」



#### (2) 参画機関（順不同）

大学：東京大学（代表機関）、東北大学、千葉大学、早稲田大学、芝浦工業大学

企業：出光興産(株)、新光糖業(株)、

自治体：西之表市、中種子町、南種子町

#### (3) プロジェクト代表者

プロジェクトリーダー：東京大学未来ビジョン研究センター 菊池 康紀 准教授  
副プロジェクトリーダー：東京大学未来ビジョン研究センター 鹿嶋 一浩 特任研究員  
(出光興産株式会社サステナビリティ戦略室 室長付)

(4) JSTによる支援期間  
2020・2021年度(2ヶ年度)

(5) プロジェクト概要

持続可能な開発目標(SDGs)をはじめとし、地域循環共生圏や気候非常事態宣言、2050年ゼロカーボン宣言、温室効果ガス排出実質ゼロなど、基礎自治体や地域において目指すべきビジョンとして示されているものの種類は益々多様化し、実際に宣言を表明する自治体も増えています。同時に、分散型のエネルギーシステムを構成する各種再生可能資源を用いた創エネルギー技術や蓄電池・エネルギーキャリアなどの調整力、固定価格買取制度や法的発送電分離など、新規な技術の開発だけでなく社会経済的な新たな仕組みも提案・実施されてきています。しかしながら、多くの自治体や地域において、専門的人材の不足などの理由により、具体的な対策の検討や計画が進んでいないという実態があります。

このような中、このたびJST「共創の場形成支援プログラム」育成型(共創分野)の公募プロジェクトとして採択されました。「資源を循環させる地域イノベーションエコシステム研究拠点」では、地域で入手可能な資源を高度に循環利用するシステムを実現可能とする拠点として、研究・教育を行っていきます。ここでは、関連する産業や公共団体と大学の共創(産学公共創)を通じ、拠点ビジョン「理想の概念・論拠・情理に基づいたイノベーションエコシステムで地域資源が循環するシステムを開発できる産学公共創の実現」のもと、

- ・地域資源の循環利用で到達できる物質・エネルギーシステムの設計
- ・地域経済循環の可視化に基づく技術と地域システムのマッチング
- ・最先端知に基づくビジョンと地域のCo-learning

・論理・論拠・情理に基づく地域資源を活用する物質・エネルギーシステムの実証・実装を目的として、参画機関が共同研究を行う予定です。理想の概念とは、地域にとってあるべき状態として設計されるものであり、その理想の概念が真に有効な性能を発揮しうるかどうかを示すものが論拠となります。さらに、これが地域の伝統や文化と照らし合わせたときに地域にとって魅力的な将来を描き、受け入れやすいストーリーを有しているかを情理として分析することで、新たな技術・システムや仕組み、生活様式といったものの受け入れやすさを高めていきます。研究開発状況や社会状況によって、導入候補となる技術・システムや前提となる条件が変遷する中、常に新たな組み合わせを検討し続けられるイノベーションエコシステムを醸成し、継続的な改善により、持続可能なビジョンへの到達を目指していきます。具体的な地域として、まず、種子島においてイノベーションエコシステムを展開し、地域資源を最大限用いるシステムを提案・実装するとともに、他地域への展開も目指します。

なお本活動については、プロジェクト開始後の進捗状況等に応じて、適宜修正される可能性があります。

(6) 関連する過去の研究業績等

Yasunori Kikuchi\*, Miwa Nakai, Yuichiro Kanematsu, Kazutake Oosawa, Tatsuya Okubo, Yuko Oshita, Yasuhiro Fukushima, Application of technology assessments into co-learning for regional transformation: A case study of biomass energy systems in Tanegashima, *Sustainability Science*, **15**, 1473-1494 (2020), <https://doi.org/10.1007/s11625-020-00801-1>

未来社会協創推進本部 SDGs 登録プロジェクト：スマートエコアイランド種子島：地域産業×科学技術×教育の連関で築くプラチナ社会,  
[https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/fsi/ja/projects/sdgs/projects\\_00106.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/fsi/ja/projects/sdgs/projects_00106.html)

(7) 問い合わせ先： 03-5841-1552、ykikuchi@ifi.u-tokyo.ac.jp

(8) JST 公表 Web ページ： <https://www.jst.go.jp/pr/info/info1475/index.html>